康本雅子 Masako YASUMOTO

踊って気持ちよくなることは、誰にでも出来る事だけど誰もが忘れている事だけど、折角、体を持って生まれてきたんだから思いっきり使い切りたい！と願いつつダンス。

Photo:沼田学

Photo:Hideto Maezawa

プロフィール

大人になってから独学でダンスを始め、自身のダンス作品を国内外で発表している。その他に松尾スズキ、白井晃、長塚圭史の演出作品での振付や、様々なミュージシャンのMVやコンサートの振付、広告や映像の振付など、多岐に渡るジャンルで活動。近年は「音で観るダンス」という、視覚に障害のある人とない人が共にダンスを鑑賞するプロジェクトにも参加。また教育機関でのWSはライフワークと化し、ダンスと性教育を混ぜたWSも全国各地で展開中。これまでにNHK番組「トップランナー」や「ようこそ先輩」に出演したりと、コンテンポラリーダンスの普及に努めている。2児の母としては、てんてこ舞い。

ホームページ　http://yasumotomasako.net/
連絡先（担当）　ペーハー 奥野将徳
住所　〒603-8132
京都府京都市北区小山下内河原町79-3
E-mail　info@yasumotomasako.net
アーティスト在住地　東京都武蔵野市

活動歴

〈2004年〉『メロドラ飯事』を韓国ソウルにて公演(「日韓ダンスコンタクト」)
〈2007年〉『ナ花ハ調』をタイ・マレーシアにて公演(「踊りに行くぜ!」)
〈2008年〉JCDN企画「踊りに行くぜ!」@ジャカルタ 現地のダンサーに振付けした作品を公演
〈2008年〉『チビルダ ミチルダ』をアサヒ・アートスクエアにて公演
〈2009年〉『油断靴』東芋×Tucker×康本雅子@横浜美術館　振付・出演
〈2010年〉『ブッタもんだすって』@NYジャパンソサエティ
〈2012年〉『絶交わる子、ポンッ』@シアタートラム
〈2014年〉『絶交わる子、ポンッ～2人バージョン』@北九州芸術劇場
〈2016年〉TPAMにて視覚障害者のパフォーマンスを監修@神奈川芸術劇場
〈2017年〉『子ら子ら』@UrBANGUILD(京都)、ヨコハマ創造都市センター、愛知県芸術劇場
〈2017年〉大人計画「業音」振付・出演@東京芸術劇場
〈2017年〉六本木アートナイトにてASA-CHANG＆巡礼と共にライブパフォーマンス
〈2018年〉北九州工業地帯三宜楼公演「うろきんさ」振付・出演@三宜楼(北九州)
〈2018年〉PKTにて小学生との作品制作「タイコロンダ」@世田谷区民会館
〈2018年〉鳥の演劇祭にて高校生との作品制作「黄ミドリと裏ミドリの乱」@鳥の劇場
〈2019～20年〉「全自動煩脳ずいずい図」を3都市ツアー公演

その他、「吾妻橋ダンスクロッシング」全公演および「踊りに行くぜ!」に出演

受賞歴

〈2004年〉『脱心講座~昆虫編』が横浜ダンスコレクション旧バニョレ国際振付賞にてナショナル協議員賞を受賞
〈2004年〉『メメごと』が東京コンペ主催ダンスバザール大賞にて優秀賞を受賞
〈2006年〉『メクラんラクめ』がトヨタコレオグラフィーアワード最終審査会にてオーディエンス賞を受賞

ワークショップ歴

〈2004年〉市民舞踊学校 対象：一般　主催：水戸芸術館
〈2005年〉横浜市内小学校3校 対象：小学生　主催：横浜市文化財団
〈2006年〉東京造形大学デザイン学科3年生 非常勤講師
〈2007年〉ワタリウム美術館1日学校 対象：幼児を持つ親子
〈2008年〉静岡音楽館AOIにて 対象：小学生
〈2012年〉北九州芸術劇場「学園祭やぶり」対象：一般
〈2014年〉北九州芸術劇場にて 対象：親子＆夫婦
〈2015年〉「アーティストとつくる」対象：小学生　主催：福岡市文化芸術振興財団
〈2016年〉京都市の小学校にてWS+学習発表会 主催：JCDN
〈2017年〉東京都の小学校特別支援クラスにて　主催：芸術家と子どもたち
〈2017年〉京都市民向け 対象：女性限定　主催：明倫こども広場
〈2017、18年〉「ブレイ!シアター in Summer」対象：小学生 主催：ロームシアター京都
〈2018年〉京都市平安擁護院にて　対象：小中学生　主催：JCDN
〈2018年〉鳥取県八頭高校にて　主催：鳥の劇場

可能なワークショップ等のスタイル

アウトリーチ

❶学校でのアウトリーチ

遊ぶように動くことから始めて、普段使わない身体感覚を目覚めさせます。ルールの中でいかに自分で考えて動くかという事を重視しながら、ペアワークでは言葉ではなく体で相手と会話することを、ダンスを通して体感してもらいます。
小・中・高校で実施（特別支援クラス含む）
▶参加人数：10～40名

❷教員へのアウトリーチ

事前に先生側の質問や要望を聞いてから、ダンスの授業で実際に使える様々なワークを行います。それぞれのワークの目的や意図も伝えながら、対象に合わせてどのような応用が出来るかも一緒に考えていきます。
▶参加人数：10名位

❸福祉施設でのアウトリーチ

そのままの体でもって心地よく体を動かす楽しさを体験してもらいます。
▶参加人数：10名位

❹企業でのアウトリーチ

まずは凝り固まった体をほぐす事から始めて、徐々に色々なルールの中で自分の発想でもって動いていきます。相手との距離感を図りながら動くペアワークや、大人数の中での全体空間を把握するワークなどを行います。結果プレゼン力やコミュニケーションスキルに役立つかも？です。
▶参加人数：10～30名

公募ワークショップ

幼児を持つ親子、子ども、大人一般、ダンサーや役者、女性一般、夫婦、視覚障害者、それぞれの対象に絞ったWSをします。対象を限定する事で、参加者に合った内容の濃いWSが行えます。どのWSも根底には、踊ることの楽しさ自由さを体感してもらえるような内容を目指しています。
◎実施条件（共通）
▶アシスタント：1名
▶1日の実施回数：2コマ
▶必要機材：CDプレーヤー（あればスピーカーも）

また、昨今から「マジな性教育マジか」という、小学生の親子向けのWSも展開中。
ここではいわゆる性教育の知識を教えるのではなく、自分の体についてやジェンダーについて、人とのコミュニケーションについて、家族について等、性を包括的に捉えたWSの内容です。

この事業で可能な市民参加作品のスタイル

オリジナル作品

公募で集まった方達一人一人の身体性や創造性をもとに作ります。その地域ならではの特色を生かしたいので、例えばその地域で活動しているミュージシャンに演奏してもらったり、劇場ではなく屋外で公演してみたり、という可能性も視野に入れたいです。

▶上演時間：30～40分
▶出演者数：3名（登録アーティスト+アシスタント+音楽家）
▶市民参加公演の形態：クリエーションワークショップ参加者との協働作品
▶クリエーションワークショップの参加（出演）人数・回数：10名程度・6～10回程度
▶同行スタッフ：演出助手1名
▶現地スタッフ：舞台監督1名、音響1名、照明1名
▶上演環境：
(1) 会場の広さ・形状：ホールに合わせます
(2) リノリウム：ある方が助かります、色は何でも
(3) 必要機材、舞台セット：未定

この事業で可能な公演作品

❶子ら子ら

母と子という普遍的なテーマのもと、自身の子育てを赤裸々に告白する作品。ダンサーとシンガーの女性2名が檄飛ばし合います。

▶上演時間：45分
▶出演者数：2名
▶同行スタッフ：音響1名、照明1名、制作1名のうちいずれか
▶現地スタッフ：舞台監督1名、音響仕込1名、照明仕込2名
▶上演環境
(1) 会場の広さ・形状：10m×7m程度
(2) リノリウム：なしでも可
(3) 必要機材、舞台セット：ワイヤレスマイク1本、長机、椅子2脚、ピアノまたはオルガン（簡易なもので構いません）

この事業で挑戦してみたいこと

●そこでしか出会えない人、場所、時間、食べ物、しきたり、みたいなもの全てがダンスに還元されると思うので、その地域だからこそ生まれる表現方法を探りたいし作りたい。

●ダンス（もっと広く言うと表現そのもの）の多様性を伝えたい。TVやYouTubeで目にするダンスだけがダンスじゃないし、もっと自由でカオスで意地悪なダンスもあっていい。ダンスの多様性を知ることが、人や社会の多様性を知ることに繋がるといいなと思います。

●各地域でダンスのWSが行えるファシリテーターを増やしたい。私のWSを受けた人がその人の見地から更に発展させていけば、WSはより深く育ち広まってくれるんじゃないかと期待します。